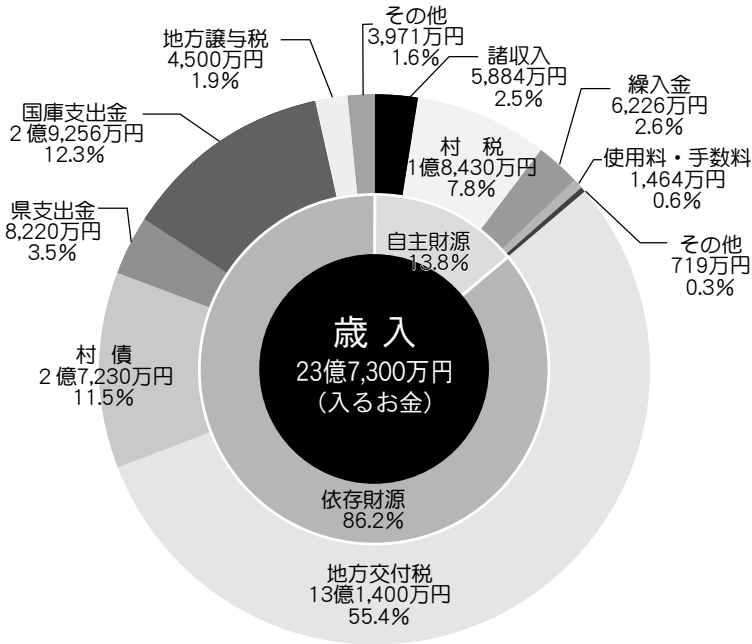


23億7,300万円

事業の緊急性や優先度を重視し

幸せを実感でききる村づくり

19年度の当初予算が3月定例会で決まりました。一般・特別会計を合わせた予算額は35億3990万円、一般会計は23億7300万円となっています。厳しい財政環境のなか、災害復旧費に3億6129万円盛り込み前年度比13・3%、2億7900万円を増額しています。村民の皆さんが幸せを実感できる村づくりのため、事業の緊急性や優先度を重視し編成された、村の新しい予算のあらましを紹介します。



グラフは歳入予算。収入がなければ予算は組めません

災害の復旧費で 予算額13・3%の増

19年度の一般会計予算は、歳入歳出ともに23億7300万円です。前年度に比べ13・3%の伸びとなりました。これは昨年12月の大雨災害の復旧費分の増額で、この災害関連の額を除くと実質は前年度比82229万円、3・9%の減額となります。歳入は本来、税収だけで賄うのが理想なのですが、上のグラフを見ると分かるように

村の場合、地方交付税が一番多く、13億1400万円です。全体の55・4%を占めています。前年度と比べるとそれでも6000万円減っています。

続いて多いのが国庫支出金2億9256万円。前年度に比べ2億4059万円、46・3%と大幅に増えています。これも災害関連による増加です。村債の2億7230万円についても災害関連などで前年度に比べ7360万円、73%増えています。